

合わない金冠は 歯槽濃漏を誘発します！

虫歯も小さいうちは、悪い部分を削りとり、つめ物（インレー）をするだけで修復できます。それでは十分な修復ができない場合は、削った歯にスッポリかぶせるのが、クラウン（金冠）です。

奥歯には金銀パラジウムなどの金属を使いますが、前歯の場合には、作製した金属の土台に陶材を焼きつけて、自然の歯に近いクラウンを作ることができます。これがメタルポンドポーセレンです。

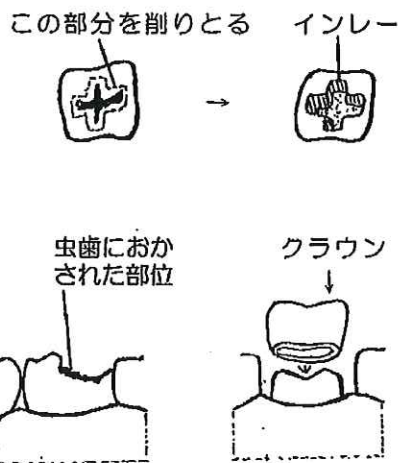
クラウンは歯科治療に欠かせない治療法ですが、適切な物を作らないと、かえって歯の病気を作り出すことにもなりかねません。クラウンの作成は精度の高い精密さを要するものです。

問題なのは、クラウンをつけたときのクラウンと歯肉のつなぎ目です。クラウンの丈が長過ぎても、短かすぎても歯の病気が起こります。もし、少しでもクラウンのすそが長いと、歯肉の中に入り込んでしまいます。そのため、歯を支える組織に炎症が起き、歯槽濃漏が誘発されるのです。少し短かめにすれば、かぶせる部分が少ないため強度の点で問題がでてきます。硬いものを噛んだときに、クラウンがはずれることもあります。また、天然の歯でも歯と歯肉の間は、プラーク（歯垢）が形成されやすいところです。そこにクラウンからはみ出した歯の面があれば、ますます汚れやすく、虫歯におかされやすくなります。つまり、長過ぎれば歯槽濃漏、短かすぎれば虫歯を作るのがクラウンなのです。したがって、クラウンを作るときには、歯肉と歯の結合面にピッタリ一致したものになるよう、緻密に設計しなければなりません。

また、クラウンは永久なものではありません。出来のいいクラウンであっても、歯肉の状態は年ごとに変わっていくため、いずれは合わなくなると考えたほうが無難です。クラウンをかぶせてからも定期的に検診を受け、合わなくなったものは取り変えるのが得策です。



インレーとクラウンの作り方



お知らせ

貧血は鉄分の不足が原因です。疲れやすい時も、鉄分の不足が原因と考えられます。鉄分は、このほかに皮膚の血色を良くする働きもあります。鉄分は、レバーや海藻、卵黄に多く含まれています。